

## 『ZAITEN』葛西名誉会長の実態！シリーズ⑥

# 分割になったら、オレは××の社長だ！ 自分たちの栄達しか考えていない

1,200兆円に届こうかという国の膨大な借金の中に「国鉄継承債務」という負の遺産が、今なお紛れもなく存在する。その額は約18兆円、国の借金の約1.5%を占める。…（略）…（葛西氏が）2015年10月に日本経済新聞紙上で「私の履歴書」を連載。幼少期からの履歴とともに、これまで語られなかった**分割民営化の裏舞台**の一端を御代自ら明らかにしてくれた。しかし、ここでも**18兆円のツケ回しには全く触れていない**。

三塚（元蔵相）の元秘書はかなり生々しい。「毎週金曜日の夜になると**三塚の個人事務所**に、**葛西**、井手、松田、をはじめ清野、細谷、石原、山田、南谷といった国鉄本社の課長から課長補佐クラスの『青年将校』たちが集まってきて、ビールを飲みながら、いわゆる国鉄改革の話をワイワイとしていました。…（略）…『**分割になったら、オレは××の社長だ！アンタは北海道の社長だろ！**』なんてことまで捲し立てていた。とにかく私が**一番不快に感じたのは、『青年将校』たちが自分たちの栄達しか考えていないところ**でした」

葛西らJR東海経営陣が「1企業1労組」を志向し、良好な関係にあると見られていた東海旅客鉄道労働組合が分裂。…（略）…

経営側は労組に対する当面の戦略として、民営化に最後まで反対していた国鉄労働組合（国労）を弾き出して**旧動労系を抱き込み、時間をかけて物言わぬ組合に変質させようと考えていたらしい**。…（略）…

労務担当者として労組対策に手腕を発揮したと言われている葛西さんが本性を現してきました。…（略）…佐藤さんを委員長から引きずりおろそうという動きが出てきたのです。しかも、その手順などの**シナリオを葛西以下経営側が書いていたことが、匿名の人物から大量に送られてきた内部資料やメモなどから分かりました**。